

百年の
老舗の初湯
塩の味



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2012

写真：2011年12月31日(土)に一泊掛けで和倉温泉のホテルに宿泊。そのホテルの旧館“渡月庵”は大正の雰囲気を残す貴重な建物です。

俳句：2012年1月26日(木)開催の金沢犀川ワイズメンズクラブ1月第一例会「俳句入門」用に作句。和倉温泉の湯には塩分が含まれていますので、塩味がするのは当然ですが、「塩味」は意義深い言葉であり、たとえば『マタイによる福音書』5章13節には、「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味がつけられよう」と記されています。

薪燃やし
古民家護る
囲炉裏端



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2012

写真：2011年12月10日(土)、東北歴史博物館で野外展示されている古民家「今野家母屋」(江戸時代中期)で撮影。

俳句：2012年1月26日(木)に開催された金沢犀川ワイズメンズクラブ1月第一例会「俳句入門」用に作句。

葉隠れに
梅の実ひとつ
若木かな



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2014

写真：2014年3月15日(土)に自宅庭の梅の若木を撮ったもの。花ではなく実のなった状態の写真を使ったかったけれど、探し出せませんでした。後年、この木は積雪のせいで折れてしまい、植えた場所も適地ではなかったので抜去。

俳句：2007年8月9日(木)開催の金沢犀川ワイズメンズクラブ8月例会「俳句入門」用に作句。

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/album/album18.html>

亡き母の
愛でしバラの木
伸び伸びと



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2017

写真：2017年5月29日(月)に撮影した、自宅の庭のバラ。このバラは、旧宅から移植したもので、生命力が強く、毎年、長期にわたって花を咲かせます。

俳句：2007年8月9日(木)に開催された金沢犀川ワイズメンズクラブ第一例会「俳句入門」用に作句。2002年7月31日に亡くなった母が自宅療養中に書き残した文：窓近くのピンクのばらが のき高く咲き美しくせっかく咲いたのに どうしてスケッチしてくれないの と云っているようだ ゴメンゴメン明日こそ朝早くから スケッチしようと思ふことは 気持ときめかして 云ってみるのだけれど どうなることか 美しく咲いてくれた ピンクのばらさん ごめんネ 明日は元気になるう！！(幸枝ノート 2002.6.1)。

人生の
卒業知らず
諸事励む



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2018

写真：2017年3月17日(金)、衆議院第二議員会館で開催された世界連邦運動協会執行理事会に出席する前に、国会議事堂前庭内に建つ憲政記念館の付近の桜の前で撮ったもの。

俳句：2018年3月19日(月)、Facebookに紹介された「句“呑会”(2018.03.19@茶房犀せい)のコメント欄に投稿。

融雪の
放水またぎ
子ら遊ぶ



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2018

写真：2018年1月24日(水)、自宅前の融雪装置を撮影。

俳句：2012年1月26日(木)開催の金沢犀川ワイズメンズクラブ1月第一例会「俳句入門」用に作句。その後、「消雪」を「融雪」に変更。

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/album/album69.html>

格子戸と
忘れな草の
片思い



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年12月11日(水)、自宅2階ベランダから撮ったご近所の格子戸。以前、同じ格子戸を積雪のあるときに撮った写真を紹介した際、小將町には格子戸のある家が何軒もあり、小柳ルミ子の歌う「わたしの城下町」を連想するというのも書き添えました。

俳句：数日前に夜中、湯船につかりながら、ふと浮かんだ句です。私の心の深層に潜むものがなせるわざかも。

安井かずみ作詩、平尾昌晃作曲の「わたしの城下町」は、小柳ルミ子の1971年4月デビュー・シングル。1971年は、木下龍太郎作詞、江口浩司作曲の「忘れな草をあなたに」が倍賞千恵子や菅原洋一によるシングルでヒットした年。同年4月に私は東北大学の博士課程に進みました。仙台出身の後輩に誘われて、夜、ご自宅のテレビで小柳ルミ子の出演するNHK歌謡番組を見たり、考古学研究室の「小柳ルミ子後援会会長」を自称したりしていました。その後、小柳ルミ子はイメージチェンジして「大柳ルミ子」みたいになってしまいました。

ハナバチの
訪れうれし
花器の菊



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：花壇に植えた菊の花とナンテンなどと一緒に花器に生けて坪庭に置いておいたところ、その花にもハナバチが寄ってきたのを、2019年11月29日(金)に撮りました。日当たりがよく、気温も上がった12:00頃にハナバチが花に群がります。作詩：小林純一、作曲：細谷一郎の童謡「みつばちぶんぶん」の二番目歌詞を連想。

みつばちぶんぶん
なぜさわぐ
なぜってひなたが
あかるくて
きもちがいいから
ぶんぶんぶん

俳句：上記の写真をパソコンに取り入れたときに作句。

逆境の
秋明菊に
花ひとつ



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：晩秋の候、庭の片隅の飛石や玉石を敷いた場所から芽生えたシュウメイギクが他の仲間に遅れて、やっと一輪咲いたのを、2019年11月29日(金)に撮りました。

俳句：上記の写真をパソコンに取り込む際に作句。

秋雨の
遺跡でイルカ
いるか問う



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：1983年10月15日(土)、能都町(現在の能登町)真脇遺跡出土のカマイルカ頭蓋骨2個体分が土壌ごとウレタン樹脂で覆って現地の仮整理室に収容されました。それがそのまま、調査終了後、金沢医科大学の平口のもとに搬入されて開封されたもの。

俳句：2019年9月27日(金)作句。真脇遺跡出土の動物遺体の整理・研究・報告を担当して以来、海沿いの動物遺体遺跡や出土遺物保管施設などを訪ねた際に、「イルカ骨は出土しているか」問うのが習いとなりました。



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

がらくたの
砵に惚ぶ
夜なべかな

写真：いつぞや金沢医科大学の内灘祭の市場で購入した砵を撮ったもの。以前撮影し、Facebook で紹介したような記憶があるのですが、探し出すよりも新たに撮影したほうが手っ取り早いので、そうしました。

俳句：2012年11月8日(木)開催の金沢犀川ワイズメンズクラブ11月第一例会「俳句入門」用に作句。

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/album/album78.html>



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

母描きし
色紙に泳ぐ
鯉幟

写真：2018年4月25日(水)、自宅にて撮影。私の母は、晩年まで洋画グループに属して活動していましたが、旧・女子美術専門学校(現・女子美術大学)の日本画師範科出身ですので、ときどき色紙に日本画も描いておりました。

俳句：2019年5月22日(水)に Facebook で紹介された「句”呑会」(2019.5.20 @茶房犀せいのコメント欄)に投稿。

亡き母の
漬けし沢庵
甕庭に



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年11月22日(金)、俳句に合った写真をと思い、自宅の坪庭の金魚鉢に添えてある甕を撮影。この甕は、二つとも、母が生前、漬物用に使用していました。私が幼い頃(70年ほど前)から使われていたものです。

俳句：2019年11月19日(火)に Facebook に紹介された第111回「句“呑会”(2019.11.18 @犀せい)に触発されて作った句。

菊の花
盛りあやかり
ワシヨット



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年11月22日(金)、自宅前の花壇にて撮影。このキクは育てやすく、また花壇の土壤に適している品種なのか、毎年、かくのごとく咲き乱れます。株分けで増やしており、余った株はプランターに植えたり、ご希望の方に差し上げたりしています。

俳句：同日、デジカメで撮った写真をパソコンで処理する際に作句。

野分去り
無事の日
除けに
光さし



Haiku & Phot: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年8月31日(土)、自宅の居間で窓を撮ったもの。

俳句：2019年8月25日(日)Facebookに紹介された「句”呑会”(茶房犀せい)のコメント欄に投稿した句。

夕暮れに
白の花
咲く
百日紅



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年9月13日(金)、ご近所の庭木の百日紅(ひゃくじつこう、サルスベリ)を道路から塀越しに作成。

俳句：同年9月20日(金)に同家の前田有加里さんから百日紅の花であることを教えてもらってから詠んだもの。

祖父の墓
探す路傍に
彼岸花



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年10月1日(火)、北陸学園キャンパス内にある金沢YMCAわいわい農園体験に参加した際に、農園近くの斜面に咲いていた彼岸花を撮ったもの。

俳句：2012年11月8日(木)開催の金沢犀川ワイズメンズクラブ11月第一例会「俳句入門」用に作句。1974年(金沢医科大学に就職)から1985年(敦賀の気比史学会に招かれて講演)までのあいだに、祖父母の墓参りを初めてしました。母の幼友達を訪ねて、そのご主人の案内で墓参りをしたのですが、代々「平口太兵衛」を襲名してきた平口家の菩提寺ではないかと思しき寺では先祖代々之墓が見当たりませんでしたので、つぎに市営墓地を訪ねて祖父母の墓を探し出した次第です。彼岸花を見かけたのは上記のお寺を訪ねたときでした。この墓参りの際に撮った写真があるはずですが、未整理のフィルムに紛れ込んでいるのか、未確認のままとなっています。

贈られし
春の花束
香り満つ



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2011

写真：2011年3月2日(水)、金沢医科大学定年退職に際し、指導学生との懇親会の席で贈呈された花束を自宅の花器に生けて撮ったもの。

俳句：2011年3月24日(木)に開催された金沢犀川ワイズメンズクラブ3月第一例会「俳句入門」用に作句。

遺跡掘る
碁石浜宿
初纏



Haiku & Photo Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：1973年6月30日(土)～7月6日(金)、岩手県大船渡市の碁石遺跡(旧石器時代)発掘調査期間に宿泊した「碁石荘」は、その後「ごいし荘」と改名したが、東日本大震災の大津波の被害を受けたせいで休業を余儀なくされました。やがて新たに建て直され、別邸として「海さんぽ」も開業となったようです。写真は、同年7月に碁石海岸で撮ったもの。碁石海岸は、その名のとおり、黒みがかかった碁石のような小石で成り立っています。

俳句：2019年9月28日(土)に写真を添えて Facebook に投稿。

旧盆に
預かりし犬
なつかんわ



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

写真：2005年8月、ウチのカミさんの実家が家族そろって旅行に出かけるとかで、飼犬の柴犬「リリー」を二日ほど拙宅で預かりました。添付の写真は8月20日(土)に撮影したもの。この写真に俳句を添えて Facebook に投稿したのは、2021年12月30日(木)のこと。

俳句：この犬は来客があるとよく吠え、特に私とは相性が悪いのか、なつきません。縄文時代の犬は小型で、現在の日本犬の中では柴犬に近い大きさですので、柴犬の標本を手に入れたと思っていました。標本作製の業者に問い合わせたら、柴犬のご遺体を提供してくれたら、骨格標本にしてあげますとのこと。「リリー」が亡くなったらご遺体をいただくかと思っていたので、「リリー」は何となく察して、私を毛嫌いしたのかも。実際に亡くなったとき、実家ではさっさと動物専門の葬儀屋に頼んで火葬にし、専用の共同墓地にお骨を納めたとのこと、事後に知りました。

<https://www.facebook.com/photo/?fbid=889717784460899&set=a.214409478658403>



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

短日
が
当
た
る
壁
か
ら
絵
を
移
す

写真：2019年9月27日(金)に撮影。短日に向かうにつれ、南向きの窓から入る直射日光の当る箇所が時間帯によっては壁に掲げた絵を照らすことになるので、絵の移動が必要になってきます。

俳句：2016年11月22日(火)、Facebookに小川修さんが「句”呑会」でご自分の俳句「短日や友の個展へ行きそびれ」三席入賞を紹介しておられるのに触発されて、コメント欄に投稿した句。



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

長
崎
の
鐘
の
歌
聴
く
秋
の
旅

写真：2019年10月16日(水)に撮った大浦天主堂。

俳句：2019年10月16日～19日の長崎・五島列島・雲仙温泉団体観光旅行では、初日の長崎市内観光で大浦天主堂を訪れました。この団体旅行では、長崎市内観光、上五島観光、福江島観光、島原市内観光それぞれ別の貸切観光バスを利用しましたので、バスガイドさんもそれぞれ別人。島原観光の女性バスガイドさんは、車中でいくつか歌を披露、そのうちの 하나가「長崎の鐘」であり、被爆した医師・永井隆氏の著書『長崎の鐘』(1949)の一部を朗読してから歌ってくださいました。<https://www.uta-net.com/song/13839/>

この句は、車中で安直に考案したもの。以前、金沢医科大学の医学部担当授業で永井隆氏のことを紹介したところ、授業が終わってから男性学生のうちの一人が近寄ってきて、「永井隆は僕の伯父さんです」と言ったのには驚きました。

島原の
子守唄聴く
秋のバス



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年10月19日(土)、天草城最上階から雲仙普賢岳方面を撮ったもの。

俳句：2019年10月16日～19日の長崎・五島列島・雲仙温泉団体観光旅行では、初日の長崎市内観光で大浦天主堂を訪れました。この団体旅行では、長崎市内観光、上五島観光、福江島観光、島原市内観光それぞれ別の貸切観光バスを利用しましたので、バスガイドさんもそれぞれ違いました。最後の島原観光の女性バスガイドさんは、車中でいくつか歌を披露、そのうちの一つが「島原の子守歌」。

<https://www.uta-net.com/movie/53782/>

東北大学の大学院に在学中、誰かがコンパで、この子守歌を歌ったら、考古学の先輩である林謙作さんが「なんで九州の子守歌は悲しく、せつないんだろう。五木の子守歌だってそうだろ？」っと、つぶやいていたのを思い出しました。

<https://www.uta-net.com/movie/7860/>

この俳句は、車中で安直に考案。

嵐去り
路面に散るは
萩の花



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

2019年10月13日(日)記載：台風19号は長野県・関東地方・東北地方太平洋沿岸地域などで大きな被害をもたらしています。被災地の皆様にお見舞い申し上げますとともに、速やかな救援・復旧がなされることをお祈り申し上げます。私の居住地域での被害は未だ見聞きしていません。添付のフォト俳句は、2019年10月13日(月)に撮影・作句したものであり、こういうノンビリしたことをしているのも気が引けるくらいです。萩の枝は、しなやかなゆえに、強風にあおられても2、3本折れただけで済みました。

桃の香の
残りし箱の
後始末



写真：2014年7月26日～7月21日、ギャラリートネリコ 2F トネリコで開催の平口幸枝遺作展“花と小鳥と蝶々と”で展示され、その場でお買い求めのあった色紙を撮ったもの。

俳句：2019年8月25日(日)に Facebook で紹介された「句“呑会”(2019.5.20 @茶房犀せい)のコメント欄に投稿した句。

Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

筍を掘り急ぐ子ら
シャツポ折り



写真：2018年4月30日(月)、北陸学院三小牛キャンパス内の竹林で行われた金沢YMCA主催「たけのこ掘り体験」にて撮影。

俳句：2019年5月22日(水)Facebook に紹介された「句“呑会”(2019.5.20 @茶房犀せい)のコメント欄に投稿した句。

Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

ツワブキの
心知りてか
蜂一匹



Haiku & Photo Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2013年10月23日(水)、自宅北側の軒下に咲いているツワブキの花を撮ったもの。この写真では写っていませんが、この花に蜂が一匹とまっていました。

俳句：この写真を2019年10月29日(火)、Facebookに投稿した際に一句添えました。

南天の
背丈伸びすぎ
実を仰ぐ



Haiku & Photo Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真：2019年11月7日(木)、自宅東側の外壁付近に植えた南天の実を撮影。この南天の木は繁殖力が強く、高さを低く剪定し、根本から伸びる幹の本数を少なくしても、すぐに伸び増え繁茂します。木の先端部に鈴なりになった実の最先端までの高さが2m60cmもあるので、脚立に上って撮りました。

俳句：同日、写真撮影後に作句。

海沿いの
遺跡掘る眼に
水着かな



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2019

写真:1982年8月18日(水)~9月1日(水)、福井県三国町(現在の坂井市)西下向(にししもむかい)の旧石器時代遺跡で発掘中に撮ったもの。この発掘現場は、名勝「東尋坊」から三国海水浴場に通じる遊歩道と崖っぶちとの間にあり、海に浮かぶヨットも、遊歩道を行き交う水着姿も見えました。

俳句:2019年9月28日(土)に写真を添えてFacebook投稿。

絵日記を
まとめて記す
夏休み



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2018

写真:たぶん1955年8月、小学校4年の夏休みに、当時、足羽山の福井忠霊場の墓守をしていた、父方の伯父の一家を訪ねたときに撮ったもの。夏休みの宿題であった絵日記は、自宅にいるときはともかく、旅行中のことは帰宅してから何日か分をまとめて書きました。日記を書く習慣は身につきませんでしたが、Facebookへの投稿は、かなり日記に近い役割をしています。

俳句:2018年7月23日(月)、Facebookで紹介された「句“呑会”」のコメント欄に投稿した句。

みちのくの
絆恋しき
芋煮会



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2018

写真：2018年10月14日(日)、内川スポーツセンターで開催された金沢ワイズメンズクラブのメネット会主催「芋煮会」で撮影。

俳句：2012年11月8日(木)に開催された金沢犀川ワイズメンズクラブ11月第一例会「俳句入門」用に詠んだもの。

年の瀬に
縁起をかつく
竹細工



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2012

写真：2011年12月17日(土)、丸岡町にある父方実家を継いだ従兄をカミさんと一緒に訪ね、従兄の奥さん運転の車で「越前竹人形の里」(福井県坂井市丸岡町上久米田 63-1)を訪ねた際に龍を模した竹細工を購入、その写真を翌年辰年の年賀状に使用しました。

俳句：金沢犀川ワイズメンズクラブ 2012年1月26日(木)開催の第一例会で行われた俳句入門Ⅲ「冬季句会」で投稿した句。このときに撮影した写真のアルバムは以下に掲載されています。

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/album/album69.html>

コロナ危機
サクラめげず
咲き誇る



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年4月3日(金)、晴天のもと、自宅近くの兼六園・金沢城公園の桜は満開。新型コロナウイルス感染症の大流行を防ぐため、不要不急の外出は控えるようにとの政府の要請が出ているけれど、人出は少ないだろうから、ざっとお花見しておこうと、出かけました。案の定、兼六園は混雑というほどの人出ではなく、特に金沢城公園は閑散としておりました。こういう状態の公園を散策する程度のことは、スーパーマーケットで買い物するよりもずっと安全で、運動不足やストレスの解消にもってこいです。一律の外出禁止令を出して取り締まり、違反者に罰金などというのは、一時停車すべきところで完全停止せず、ゆるゆると車を動かしたのを隠れたところで監視し、咎めて罰金を科すような、点数稼ぎの警官を生み出しかねません。添付の写真は、金沢城鶴丸倉庫の桜を撮ったもの。

俳句：4月3日に撮った桜花の写真を、4月4日(土)、どこにも出かけないで整理などしながら作句。

ちらほらの
赤い椿に
寄り添って



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年3月8日(日)朝寝坊。午後、廃車の準備をしてから花壇やプランナーの手入れがてら撮ったもの。

俳句：白い椿に遅れて咲き始めた赤い椿に寄り添って撮った写真に添えた句。生物ではない愛車なのに、生き物に対するような感情を抱くのがから、旧宅から新宅に移植した椿、しかも亡き母が生前、よく絵に描いた椿ですから、いっそう愛着を感じます。

寒明け後
草花に降る
白きもの



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年2月17日(月)朝起きてみると、プランター植えの水仙やノースポールに花が咲いているというのに、雪が降り積もっていました。朝食後、プランターに積もった雪を粗々とですが取り払い、軒下などに移動。添付の写真は、その二日後にノースポールを撮ったものです。このノースポールは、以前、花が咲いた苗株を購入してプランターに移植しておいたところ、種が飛び散って、あちこちに芽を出したのを植え替えておいたもの。

俳句：茶房犀せい主催「寒明けの句会」(2020.2.17)の作品がFacebookで紹介されていたので、例によってコメントのスレッドに3句書きこんだうちの1句。

椿の葉
花似て白き
薄化粧



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年2月6日(木)、今年に入って初めての積雪。自宅東北側の塀沿いに植えた白椿を撮りました。

俳句：その椿の葉に、うっすらと雪が積もっていて、白い花や蕾と紛らわしい様子を詠みました。

蠟梅に
積もりて香り
凍るらむ



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2019年2月1日(金)、自宅東側の塀にそって植えてあるロウバイの花を撮ったもの。

俳句：その写真を2019年1月20日(月)、Facebookで紹介した際に添えました。

残菊と
南天コラボ
庭の花器



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年1月3日(金)撮影。毎年秋に自宅南面の花壇やプランターで赤色の花を咲き誇るキクは、花が枯れた枝から順次伐採し、年明けの二日にすべて根元から伐採しました。近くの花屋さんから2年前にもらったキク株のうち、なんとか生き残って咲いた薄紫色の花は、遅咲きで未だ枯れていないけれども、ヒョロヒョロ伸びた枝先に咲いているので見栄えがしません。そこで、すべて伐採して、南面の坪庭に置いた花器に生けたナンテンの実と一緒にしてみました。

俳句：撮影後の作句。

木枯らしや
散り具合見て
なるほどね



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

Facebook2020年11月21日(火)、村井幸子さんによる「句“呑会”11月例会・季語「風(木枯らし)」作品紹介に触発されて投稿した俳句。自宅南側に植えてあるイチジクの葉が黄ばみ、次第に葉の縁辺が焦げ茶色に変色しながら縮んでゆき、やがて風に吹かれて落ちてしまう様子を見て詠みました。添付の写真は、残り少なくなった黄色の葉を撮ったもの。

寒月に
捨てられし猫
なつっこく



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

写真：1999年末から金沢医科大学基礎研究棟付近の渡り廊下に居ついた雌猫は、まだ若く、すれていません。人の姿をみると、お腹がすいたとばかりにニャーゴと鳴くので、私はこの猫を勝手にニャーゴと名づけました。ごく最近まで育てていた飼い主が捨てたのでしょう。この寒空にかわいそうにと情がうつり、夜中、帰りしなに餌を与えるようになりました。私以外の人からも餌をもらっていても、毎日、必ずというわけではないようです。コーヒ茶碗の受け皿に餌をおいてやると、喉をならして大喜びで食べます。大学前のローソンで買ったキャットフードよりも煮干しのほうが断然好物みたい。2000年2月18日(金)、昼間にお目にかかったので、デジタルカメラで撮影。後日、この猫を気にいった女性が引き取り、大学敷地内の野良猫に餌をやるのは禁止されました。

<https://www.facebook.com/photo/?fbid=214409615325056&set=a.214409478658403>

俳句：2021年12月30日(木)に上記写真を見ながら作句。

小雨降り
勢いつけて
薔薇が咲く



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2017

写真：2020年5月17日(日)、自宅庭のバラの木に咲いた花を撮ったもの。背高ノックのバラの上枝に空を見上げるように咲いているので、2階ベランダからズームレンズでアップして撮りました。

俳句：このバラの花は今季の2番花ですが、雨が降ったらほかにもつぎつぎと咲き始めました。

梅雨入りで
草木は伸びる
人は鬱



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2020

写真：2020年7月3日(金)、自宅南側の草木を撮ったもの。左からミニトマト、白い花の咲くフヨウ、ピンク色の花の咲くフヨウ、その後ろのネット内にツバキとイチジク、その右にハギ、ブロック塀掛けのプランターにニチニチソウとマリーゴールド、ブロック塀下のプランターにサツマイモを植栽。

俳句：2020年6月15日(月)開催の茶房「犀せい」句“呑会の諸俳句を Facebook で拝見し、三つの指定季語のうち「梅雨」を選んで作句。梅雨に入ると、狭い自庭の草木が勢いよく伸びます。「うっとうしい梅雨」と言うほどだから、梅雨時に「うつ病」になる人もと思って、インターネット検索してみたら、秋冬だけでなく夏や梅雨時に季節性の「うつ病」になる人がいるそうで、男性よりも女性に「夏うつ」になる人が多いとのこと。「うつ病」ほどではなくても、また季節性かどうかはともかく、時どき気分が落ち込み、「やる気」をなくすことがあります。そういうときは、まったく別のことをして気分転換することになっています。

山芋のツル雨樋を這いあがり



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

2021年5月30日(日)、自宅南側軒下の花壇に生えてきた山芋の蔓を雨樋の排水管に誘導しておいたら、あっという間に二階ベランダ付近まで這いあがり、さらに雨樋をめざす勢いとなったのを撮影。その様子を6月1日(火)に詠みました。

ドクダミの
花かたわらに
咲かぬ華



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

2021年、自宅東側の庭に植えてあったシャクヤクが花を咲かせなくなったので、株分けして南側の軒下花壇の二カ所に移植したのですが、どちらも、やはり花が咲きません。本来ならば華麗な花を咲かせる筈のシャクヤクなのに、その周りに咲くドクダミの旺盛さに負けてしまっているようです。その様子を5月31日(月)に写真に撮り、作句。

南天の
花撮る先で
羽音あり



Haiku & Photo Hiraguchi, Tetsuo 2021

2021年6月18日(金)、昼食前に撮った写真に俳句を添えたもの。背高ノッポのナンテンが花盛りなので、脚立に登って花を撮ろうとしたら、羽音を立てながらクマンバチが蜜を吸うために飛び回っていました。恐る恐る撮った写真です。「南天の花」の季語は夏、「蜂」の季語は春なので、「羽音」としておきました。

政界の
汚濁をよそに
霧晴れる



Haiku & Photo Hiraguchi, Tetsuo 2021

写真：2021年6月5日(土)早朝、金沢YMCA わいわい農園のある北陸学院三小牛キャンパスの小学校駐車場から山岳地帯を遠望。先週末から晴天続きでした。

俳句：2021年9月23日(木)に Facebook で紹介のあった第129回「句“呑会”報告」に呼応してコメント欄に投稿。

冬晴れや
山々見渡し
滑り出す



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

写真：1990年1月7日(日)、家族連れで一里野スキー場に行ったときの写真。
<https://www.facebook.com/photo/?fbid=886973074735370&set=a.762143457218333>

俳句：2021年11月15日(月)に茶房「犀せい」で「冬晴れ」を兼題として開催された「句”呑会」のことが11月16日(木)Facebookに紹介されているのを見て、そのコメント欄に11月25日(木)投稿した句。下手の横好きで毎年のごとくスキー場に出かけていたのに、2004年に脳梗塞を患ってから、血を固まりにくくする薬を服用するようになったので、怪我をして出血することのないよう、骨折のおそれのあるスキーはしないことにしました。

除夜の鐘
父の享年
過ぎし吾



Haiku & Photo: Hiraguchi, Tetsuo 2021

写真：2011年大晦日と2012年元旦の境目における除夜の鐘は、和倉温泉の宝仙閣で聴きました。独身の息子を誘って親子3人で一泊。手ごろな料金で泊まれる部屋が空いていたのは、この宿だけでした。添付の写真は2012年1月1日(日)の朝食を撮ったもの。

俳句：2021年12月20日(月)に茶房「犀せい」で開催された「句”呑会」の句会報告がFacebookに掲載されていたので、そのコメント欄に12月25日(土)投稿した句。父は1910年(明治43年)9月生まれ、1977年(昭和52年)5月に死去、享年67歳(満66歳)。私は1945年(昭和20)4月生まれですので、上記の除夜の鐘は、数え年67歳のときに聴いたこととなります。2011年3月末をもって定年退職した私にとって、二重の意味で感慨深い除夜の鐘でした。